

矢板がまんだ偉人④ 横田 仁郎

今回は、偉人中の偉人とも言うべき人物を紹介しましょう。とにかく、夫人がタイ王族の姫君と言いますから、超ビッグな話ですよ。このことについては、やいた広報第二十一号（昭和五一年八月発行）で紹介されておりますが、今回、改めてタイ国日本大使館に問い合わせ、確認をしました。



● 生い立ち
この人物の名は横田仁郎、明治二八年に現在の末広町フットボールセンター付近で司法書士の父親真蔵の五人兄弟の次男坊として生まれました。宇都宮師範学校を卒業後、教師となり鹿沼小を振り出しに、矢板小や片岡小で教鞭を取りました。専門は美術で、生徒たちの要望に応え、その

場でも何でもサッサと書き上げては、拍手喝采を浴びていたそうです。
● タイ国に派遣
一大転機が訪れたのは太平洋戦争中のことです。突然、教育使節としてタイ国に派遣され、バンコク市内にある国立ボーチャン芸術アカデミーで、現地の子どもたちや上流婦人を相手に描画指導に当たっていました。ここで、終戦を迎えますが、これまでの功績により、抑留生活中も寛大な待遇を受け、現地に留まることとなりました。
● 王族と再婚
間もなく夫人と死別しますが、この後一体どんな縁があったのでしょうか、何と王族の娘と再婚したのでした。その名は、スニット・ロジャナロットで、姫君と言いつつも、実に庶民的な方で、学校を設立して自ら校長になりました。
また、このお二人の間に生まれた男の子は、東京工業大学の建築学

部を卒業しています。
● 兄弟たち
また、横田兄弟は秀才ぞろいであり、長兄の實は日大卒業後産経新聞社に入社して副社長にまで上り詰めています。次弟の誠は、慶大卒業後関西テレビの重役に、そして末弟の忠は、北京大学卒業後、会社社長に就任しています。
● 最後に

現在、横田の描いたタイの作品が何枚も遺されていきます。彼はこの後どんな人生を送ったのか一切不明で、昭和六〇年に九〇歳で波乱の人生に幕を閉じました。
(T・S)



横田作の人物画

● 今回の出場した大会は
全日本中学校陸上競技選手権大会、今年八月に開催された全日本中学校陸上競技選手権大会走幅跳で優勝した矢板中学校三年の福田蒼依さんに全国大会の様子やこれからの目標などについてお話しを伺いました。
● 今年出場した大会は
全日本中学校陸上競技選手権大会、今年八月に開催された全日本中学校陸上競技選手権大会走幅跳で優勝した矢板中学校三年の福田蒼依さんに全国大会の様子やこれからの目標などについてお話しを伺いました。
● 今年出場した大会は
全日本中学校陸上競技選手権大会、今年八月に開催された全日本中学校陸上競技選手権大会走幅跳で優勝した矢板中学校三年の福田蒼依さんに全国大会の様子やこれからの目標などについてお話しを伺いました。



とちぎ国体出場を目指す

矢板中学校 福田 蒼依さん

福田蒼依さん
今年八月に開催された全日本中学校陸上競技選手権大会走幅跳で優勝した矢板中学校三年の福田蒼依さんに全国大会の様子やこれからの目標などについてお話しを伺いました。
● 今回の出場した大会は
全日本中学校陸上競技選手権大会、今年八月に開催された全日本中学校陸上競技選手権大会走幅跳で優勝した矢板中学校三年の福田蒼依さんに全国大会の様子やこれからの目標などについてお話しを伺いました。

(編集後記) 平成から令和の時代を迎えて、初めての師走。かわら版も創刊より12年が過ぎました。新しい時代の幕開け、記者も来年の干支にならってコツコツと取材を重ねていきたいと思います。皆様のご健康とご多幸をお祈りします。(J・N)